

1. 委員会研究テーマ

外国語や異文化に対して興味・関心を高めながら、すすんでコミュニケーションを図ろうとする態度を育てるための指導はどうあったらよいか。

2. 研究内容

(1) 公開研究授業

期日	平成 24 年 11 月 7 日(水)	単元・題材名	What time is it in～? (時刻の言い方を知ろう)
授業学級	高甫小学校 5 年和組	授業場面	世界時差時計地図を完成させる場面で、 お互いが担当する国の時間を英語で伝え合 う。
授業者	小林志津代教諭		
指導者	山崎悦夫先生		

(2) 研究内容

「子どもと共に創る授業のあり方の追究」を受け、子どもたちが主体的に学べるようにするために、どのような活動場面が有効か、本時を中心に模索していきたいと考えた。

まず、本時の活動案としては、「『この都市が今何時かクイズ』を作り、友だち同士で解き合う」を中心場面としたが、時刻の答えを知るためだけのクイズではなく、クイズから何か情報を得たり、クイズの答えから自分なりに何か考えたりする方が、子どもたちが主体的に学べるのではないかと、ということが検討事項に上がった。

次に、そこから「時差時計を作り、それを使いながら時間を聞き合う」という活動場面に変えた。時差時計を見ながらいろいろな国の時間的な情報を得たり、自分で国を選びながら自分なりにクイズが創れたりするのではないかと考えたわけである。が、時差時計を個人で持っているのなら、自分のを見れば世界の時刻が分かるのだから、わざわざ友だちに時刻を聞きに行くこともないのではないかと、コミュニケーションすることの必要感の有無が問題になった。

最終的には「グループ内で国旗を持ち、外国人同士になりきってお互いに時刻を聞き合い、世界時差時計地図を完成させる」という活動場面を考え、また、お互いに聞き合って、早く終わってしまった児童には、世界時差時計地図にはないスペシャルな国についての問題があると、さらに主体的に活動できるのではないかと考え、本時を設定した。

3. 研究の成果(研究内容の実践・振り返りの観点から)…項目については、自由

(1) 研究授業から明らかになったこと

- ①授業学級は、男女関係なく声をかけあい、自然にコミュニケーションがとれていた。子どもたちの主体的な活動を促すには、学級の雰囲気は大切である。
- ②授業者の先生が、クラスルームイングリッシュを適時使っていたので、子どもたちの外国語活動への学習意欲も高まっていくと思われる。
- ③教科横断的な活動内容であり、それに適した教材の準備もされていたので、子どもたちの興味・関心を、十分に引き出すことができた。
- ④T・Tの形をとったので、疑問や質問を気軽に聞いたり、次の活動に自分から進んで取り組んだりできた。

(2) 授業研究会から明らかになったこと

- ① 本時のゴールは、研究テーマと関連させると「世界には時差があることを理解できる」ではなく「時差を知るためにコミュニケーションを図ろうとする」などのほうが、適切であった。
- ② 子どもたちが、自分の担当の国の時刻をお互いに伝えあい、聞き合う場面を設定したことにより、コミュニケーションの必要感が生まれ、主体的に取り組むことができたと考ええる。一方で、世界時差時計地図を早く完成させることを優先してしまっている児童も何人かいた。コミュニケーション活動における目的意識の大切さを改めて感じた。

(3) その他

・・・子どもたちの感想から・・・

「同じ国の中でも時差があるなんて驚いた。」「日本と韓国はお隣りで近い国だと思っていたけど、時差があるなんて知らなかった。知ることができてよかった。」「モーリタニアってどこかなあと思って、家に帰って調べてみた。タコが有名って書いてあった。」

などの感想が授業者から寄せられた。授業が終わった後も、主体的に学ぶ子どもたちの姿があり、活動内容や場面が有効であったと感じられる。

4. 来年度への課題…できるだけ箇条書きに

(1) 研究の成果から来年度の研究へつなげる課題

- ・コミュニケーション活動の目的を明確にし、本時のゴールとつなげること。
- ・子どもたちが主体的に取り組める活動場面の設定。

(2) 研究推進や運営について

- ・適時、無理のない範囲で行う。臨時委員会をとらない。
- ・本時によせた学習指導案が良い。

(3) その他

特になし